（1）主題名　信頼・協力し合う集団　〔小学校高４－（６）〕関連項目　〔２－（３）〕

（2）ねらい　互いに相手の気持ちを理解し，信頼し合って「いじめ」のない明るく楽しい学級をつくろうとする心情を育てる。

（3）資料名　「これってもしかして」（出典：新しい道徳　6年・光文書院）

資料の概要

「小さないじめの始まりをきちんと解決することが大切」とお父さんに言われたが，自分のクラスにいじめはない，そう思っていた大介。しかし，ある朝仲良しの浩一の上履きが片方なくなる事件が起きた。助けを呼ぼうと教室に行くと，隠した子らの話し声が聞こえ，驚くが何も言えない大介。２人は教室に戻り，黒板のわきにある上履きを見つけるが「このままにしておこう」と大介は浩一に言う。先生の足音が聞こえてきた。

（4）学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と児童の心の動き	留　意　点
導入	1　自分たちの学級の「じまんできること」を考える	○みんなの学級の「じまんできること」は何だろう。 ・仲がいい ・明るい	○具体的な事象を挙げて理由付けさせる。
展開	2　資料を読んで大介の気持ちについて考える。	○大介のクラスの「じまんできること」は何だろう。 ・仲がいい ・優しい人が多い ○上履き探しを手伝ってもらいに教室に行ったあと，大介の胸がどきどきしたのはなぜだろう。 ・どうしよう ・クラスに隠した子がいるなんて ・浩一くんに何と言おう	○浩一の意見、大介の思いをおさえる。 ○事件が起きるまでのクラスへの思いをおさえて対比させる。
	3　周りにいる子の気持ちを考える。	◎教室に入ってきた２人を見ながら，クラスの友だちは何を考えていただろう。 ・上履きを見つけられるかな ・どうするだろう ・かわいそうだな ・やめてほしいな ○大介はなぜ「このままにしておこう」と言ったのだろう。 ・先生に気付かせたかった ・みんながどうするか知りたかった	○笑いをこらえている子，心配そうな子，気付いていない子に分類して意見を整理する。
	4　この後の展開を考える。	○このあとどう解決していったか考えてみよう。 ・大介がみんなに訴えて解決した ・隠した人が反省して解決した	○解決するという前提で大介，浩一，周りの子の行動を考えさせる。
終末	5　本時の感想を書く。	○お父さんの言葉を思い浮かべながら今日の学習の感想を書いてみよう。 ・放っておかずに早く解決するのがいい ・友だちが困っているときには自分にできることをしたい	○父の言葉をふり返らせる

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

この資料では，「小さないじめの始まりをきちんと解決することが大切だ。」という父の言葉にあるように，「小さなことだから」と見逃さずに「きちんと解決する」ことの大切さを考えさせることができる。

学級の中には，資料にあるように，いたずら半分で物を隠したり隠されたりした経験をもつ児童がいる。

当事者の思いに迫らせながら周りにいる子の思いを考えさせることで，学級の問題を見逃さず，自分たちで解決しようとする実践力を育てることにつながると考える。

２　指導過程の工夫

導入では、自分たちの学級をプラス面から見つめさせるようにした。（楽しい場面を想起させる働きかけがあればより効果的と考える。）

展開では、教室に向かうときと，教室で友だちの声を聞いた後の大介の気持ちを対比しながら考えさせることで，課題に直面したときの驚きととまどう心情に共感させることができた。

今後の展開を考えさせる発問以降の時間が十分とれるように時間配分を考慮する必要がある。

終末では、父の言葉を想起させることで，「いじめ」についてどう考えるかを意識させることができたが，反面で父の言葉をそのまま書く子もいたので，自分の思いや，自分の生活を見つめられるような声かけが必要な児童もいた。

３　発問の工夫

中心発問については，実際に教師が教室の中に入ってみせて，どんな気持ちになるかを，その様子を見ながら考えさせた。

この後の展開を考えさせる発問では，解決していくことを前提として，誰の行動がきっかけとなって解決に向かうかを補助発問で考えさせた。

４　児童の反応

実際に上履きを隠された経験のある子が，そのときの思いを発言してくれたことで，自分たちの身近にもある事象だという雰囲気ができ，真剣に考えることができた。

「先生が解決してくれる」という意見に対して，「先生がうまく解決してくれるとは限らない。」という意見が出された。これまでの経験にもとづいた意見であろうが，表面上解決に見えても，きちんと解決するためには，自分たちで話し合わなければならないという意見には多くの子が共感していた。

感想では，自分たちの生活を見つめて「いじめを解決する」ために大切だと思うことを書いた子が多くいた。

５　授業後のフォローアップ

「いじめ」をテーマにして，何がいじめなのか，何がいじめにつながるのか，具体的な事例をもとにして，学級活動において考えさせる場を設定した。「小さなことだから」と，事象を見逃さないように，クラスの児童の実態（人間関係）を随時把握して，必要に応じて個別指導や学級指導とあわせて，生活指導を行っていく。

（八次小学校）